

鹿児島県立埋蔵文化財センター

てんぽざんほうだいあと

天保山砲台跡 発掘調査会

現地説明会



姿を現した砲座の石列

「天保山砲台」とは

天保山砲台は、1850（嘉永3）年に島津斉興が築いた砲台です。ここからの砲撃で、薩英戦争の火ぶたが切られたといわれています。

欧米列強の力を見せつけられた薩摩藩は、この戦争をきっかけにして、急速に近代化を進めていくことになります。



石畳（船着き場・荷揚げ場）

「九州・山口の近代化産業遺産群」を世界遺産に！

日本は、幕末以降、西洋以外の地域で初めて、それも極めて短期間に飛躍的な近代化を遂げました。中でも、島津斉彬によって1850年代に開始された集成館事業で培われた技術は、日本の初期の近代化に大きく貢献したのです。本県を含む九州・山口の6県10市では、これら日本の近代化に貢献した遺産群の世界遺産登録を目指しています。

日時 平成23年2月19日（土）雨天決行
午前10:00～12:00
午後2:00～4:00

場所 天保山砲台跡（天保山公園内）
（鹿児島市天保山町24番地）

お願い 車でお越しの方は、天保山公園内の臨時駐車場を御利用ください。
ただし、台数には限りがありますので、できるだけ公共交通機関を御利用ください。

